

60の言語を同時通訳

前橋のC&T システム開発 観光、教育で活用期待

多言語化支援ツールなどを手がけるC&T(前橋市石倉町、滝沢清美社長)は、複数言語を同時に通訳できるシステム「guideitrans(ガイドトランス)」を開発した。約60の言語に対応し、最大256人に同時通訳できる。インバウンド(訪日客)需要を見込んで観光業に売り込むほか、博物館や美術館での案内、外国人が学ぶ教育現場での活用も検討している。

同システムは、スマートフォンなどで「ワンタイムQRコード」を読み取ると、母国語の翻訳字幕と音声リアルタイムで再生される。米グーグル社の翻訳技術を採用している。

例えば、外国語が話せない日本人ガイドが英語、中国語、韓国語を話す外国人を案内する際、日本語で話

した内容をシステムが同時にそれぞれの言語に翻訳。スマホに字幕が打ち出され、音声も再生される。反対に、外国人が母国語でガイドに質問することもできる。質問内容は日本語で再生されるため、ガイドとの間でスムーズな意思の疎通につながる。

利用時の位置情報や時



ガイドトランスを試す滝沢社長。日本語をリアルタイムで中国語、韓国語、英語に翻訳できる

間、言語も把握できるため、外国人がどの観光地に足を運ぶのかといった調査も可能という。

システム料金は月額2万円、利用回数が基本プラ

ンを超えた場合は都度課金される。初年度は2千万円の売り上げを見込む。

滝沢社長によると、草津や伊香保といった外国人に人気の県内温泉地での実証実験を、県に提案している。

同社はこれまでも、通訳付きビデオチャット「remoteconnect(リモートコネクト)」や、セルフ通訳システム「selfitrans(セルフトランス)」などを投入。4月

に高崎市で開かれた先進7カ国(G7)デジタル・技術相会合の関連イベントでは、会場限定でセルフトランスを無料提供した。

滝沢社長は「東日本大震

災時の外国人への言葉の支援が、システム開発の原点。言葉の壁を少しでもなくしたい」と話している。

(大栗和範)